

平和の集い(敬老会交流会)



H29. 8. 9(水)



今日は、8月9日。長崎に原子爆弾が投下された日です。西山台より7名、三川より7名、併せて14名の地域の方々に来ていただき、5歳児虹組が平和について考える「平和の集い」に参加しました。

今日の日を迎えるにあたり5月に爆心地公園や平和公園の見学に行ったり「平和の集いの日に、おじいちゃん、おばあちゃんたちに聞いてみたいこと」を考えてみたりしました。DVD「ヒロシマに一番電車が走った」を見た後に、子ども達から3つの質問がでました。

【子どもたちからの質問】

1. 戦争中、どんな遊びをしていましたか。(どんなおもちゃがあったのかな…という思いから)
2. 戦争中、どんな食べ物を食べていましたか。
(食べ物がたくさんなかったみたいだけど、どんなものを食べていたのかな…という思いから)
3. 悲しかったことを教えて下さい。(たくさん悲しいことがあったんだろうな…という思いから)

おじいちゃん、おばあちゃんより「缶けりや縄跳び、コマで遊んでいたこと」「子どもの頃、食べ物が全くなくて、野山に食べられる草を探しに行ったこと」「米がないので、少し麦にたくさんの水を入れて量を増やして食べていたこと」「今はお金を出してすぐに物が手に入るけれど、戦争の頃はお店に行っても何もなかったこと」「芋ほりの後に捨てられたすじのような細い芋を拾って大事に食べていたこと」「ノートも鉛筆も何もなくて、悲しい思いをしたこと」「イカの軟骨を消しゴム代わりにしていたこと」など、さまざまな体験の話をききました。子どもたちもお話しする方の表情をじっとみて、話に耳を傾けていました。辛い体験もあるでしょうが、それでも皆様が語ってくださる姿に、子どもたちや私たちに「もう二度と戦争はしてはいけない」と、子どもたちの幸せを願う真剣な思いを感じました。平和について子どもたちには理解する上での難しさもありますが、今日のこの時間を受けて、子どもたちなりに平和について「命の大切さ」や「自分たちにできることは何か」等を考える大切なきっかけにさせていただきたいと思っています。「長崎」に住む子どもたち・私たちも真剣に「平和」について向き合い、それを伝えていくことの大切さを痛感した一日でした。

